学校だより

令和５年　５月　３０日
Ｎｏ．３　　６月号
横浜市立瀬谷第二小学校
校　長　　山崎　由美

学校教育目標

友情わく　力わく　希望わく　　毎日わくわくする学校

これからの時代に必要な力とは

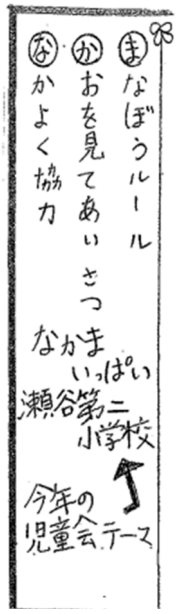
校長　　山崎　由美

今年度第１回目の代表委員会を４月26日に行いました。代表委員会というのは、４年生以上の各クラスの代表者がクラスで話し合った意見を持ち寄り話し合う場です。今回の議題は“今年の児童会のテーマを決めよう”でした。児童運営委員会からの提案は“なかま”という言葉の頭文字に込める意味を考えて欲しいというものでした。

私も子どもたちがどんな話し合いをするのか楽しみにしていたので代表委員会を参観しました。想像以上の話し合いに驚きました。例えば“なかま”の“か”の文字に込める意味として原案は「かっこいいあいさつ」でしたが、クラスからは「かんぺきなあいさつ」「かっこいい元気なあいさつ」「顔を見てあいさつ」など様々な意見がでました。そこからの話し合いが見事でした。１年生にもわかりやすい方がよい、たくさん盛り込みすぎない方がわかりやすい、など子どもたちなりの根拠で最終的にはあいさつは相手に気持ちが伝わることが大切なので「顔を見てあいさつ」という意味に決まりました。子どもたちは自分のクラスの意見に固執することなく、よりよい考えにするために相手の意見を聞き、それならこれはどうだろうと柔軟に考えを変えていました。そしてみんなが納得できる答えを導き出していました。子どもたちの姿で立派だと思ったのは、きちんと自分で考え、相手の考えを聞き、そして再思考していたことです。話し合いの中では相手に対する否定の言葉は聞かれず、なぜ提案したかという提案理由に沿った話し合いがなされました。最近よく聞く“論破”ではなく、よりよくするためという話し合いの原点が見えるものでした。

チャットGPT（対話型人工知能）という膨大なデータを基にAIが答えを出してくれる時代に突入しようとしています。その流れはきっと加速していくことでしょう。しかし、先に述べた子どもたちの話し合い活動のように自分で考え、相手の考えを聞き、それを深めていくことで人の行動に意味が生じます。どんなにAIが立派な意見を導き出してくれても、そこに思考が伴わなければその行動はロボットがすることと大差ありません。このように人が人とかかわり納得解を生み出すことは、子どもたちが大人になった時に大きく役に立つ力になるでしょう。

コロナが落ち着いてきた時だからこそ、このようなかかわりを大切にした教育活動を行っていきたいと考えています。うまくできるかどうかではなく、うまくできなかった時に人と対話を重ねながらどのようにしたらよいか考えることのできる、そんな逞しい子どもたちに育ってほしいと思います。



☆瀬谷第二小学校ホームページに、日々の学校の様子を、「わくわくレポート」として不定期でアップしています。合わせてご覧ください。